

地域医療

あがの市かわら版

第8号

『あがの市民病院』の完成迫る!!

8月以降は移転準備



あがの市民病院の外観

あがの市民病院の10月1日の開院まで、残すところあと3か月余りとなりました。

昨年4月に着手したあがの市民病院の建設工事はこまめで順調に進み、予定工期であった7月末までに完成する目処が立ちました。

5月末時点の各工事の進捗は、建築が90%、電気が91%、機械が85%でそれぞれ予定を上回る進捗状況です。

現在、建物内部では、床材の貼付け、家具や手摺（てすり）の設置など、引き続き残る内装工事を進めるほかに、設備機械の試運転調整なども同時に行っています。

また、新病院周辺部分の外構整備についても7月中旬を目処に完了させる予定です。

そして7月末には建築基準法に基づく完成検査や、消防、設計会社、そして最後には発注者である阿賀野市による竣工検査全てに合格して、建物が施工者から発注者に引き渡される見込みです。

8月以降は、あがの市民病院で使用するために新たに購入した什器や医療機器の搬入作業を行った後、病院職員による、患者搬送や運用を検証するためのリハーサルを9月末まで続け、新病院の開院を迎えます。



「ごすっちょ」と阿賀野市風の丘公園

新病院に癒しの風景画!!

阿賀野市（旧水原町）の出身で、風景画家の第一人者である島倉二千六（ふちむ）氏の巨大絵画が、あがの市民病院のエントランスホール内の壁面に展示されることになりました。

この作品は、横4.5m×縦1.8mの巨大絵画で、「この絵を見て病院の患者に元気になってもらいたい。」という気持ちを込めて、阿賀野市の代表的な風景である瓢湖、五頭山、桜を盛り込んだ大作です。



新病院に展示される風景画

先生は、これまでにゴジラやウルトラマンシリーズの他に、100本を超える映画作品も手がけてきました。

中でも、黒澤明監督作品「まあだだよ」の夕焼け空で日本アカデミー協会特別賞を受賞した他、文化庁国際映画祭特別賞受賞、文化庁映画賞功労賞も受賞した現役の風景画家です。

顔の見える関係づくり!!

医師と行政の打合せ会開催

6月5日（金）に、水原郷病院と脳神経センター阿賀野病院、市内の開業医の医師の方々15人と、行政関係者36人で、阿賀野市保健医療福祉関係等業務打合せ会を開催しました。

この会議は今年度で8回目となり、10月1日にあがの市民病院の開院を迎えることもあり、最初に、水原郷病院の尾崎院長から、「あがの市民病院がめざす方向性」について、説明をしていただきました。内容は、常勤医師が少しずつ増えていること、2次救急輪番制に再参加し、地域包括ケア病棟を設置したこと、地域には往診や訪問診療で在宅で看取りをされている先生方がおられ、大変心強い。今後は、



在宅療養後方支援病院を目指していきたいということでした。

続いて、「地域の病院と開業医療機関、行政との連携を深めるために」と題しまして、約30分にわたり、意見交換を行いました。

地元の開業医の先生方からは、「水原郷病院が後方支援病院になってもらえば、心強く、選択肢も広がる」、「この地域は、在宅での看取りの数が県内トップクラス。開業医と病院との連携を取れる仕組みづくりが重要」等の御意見が聞かれました。大変活発な意見交換が行われ、その後、懇親会が行われました。

